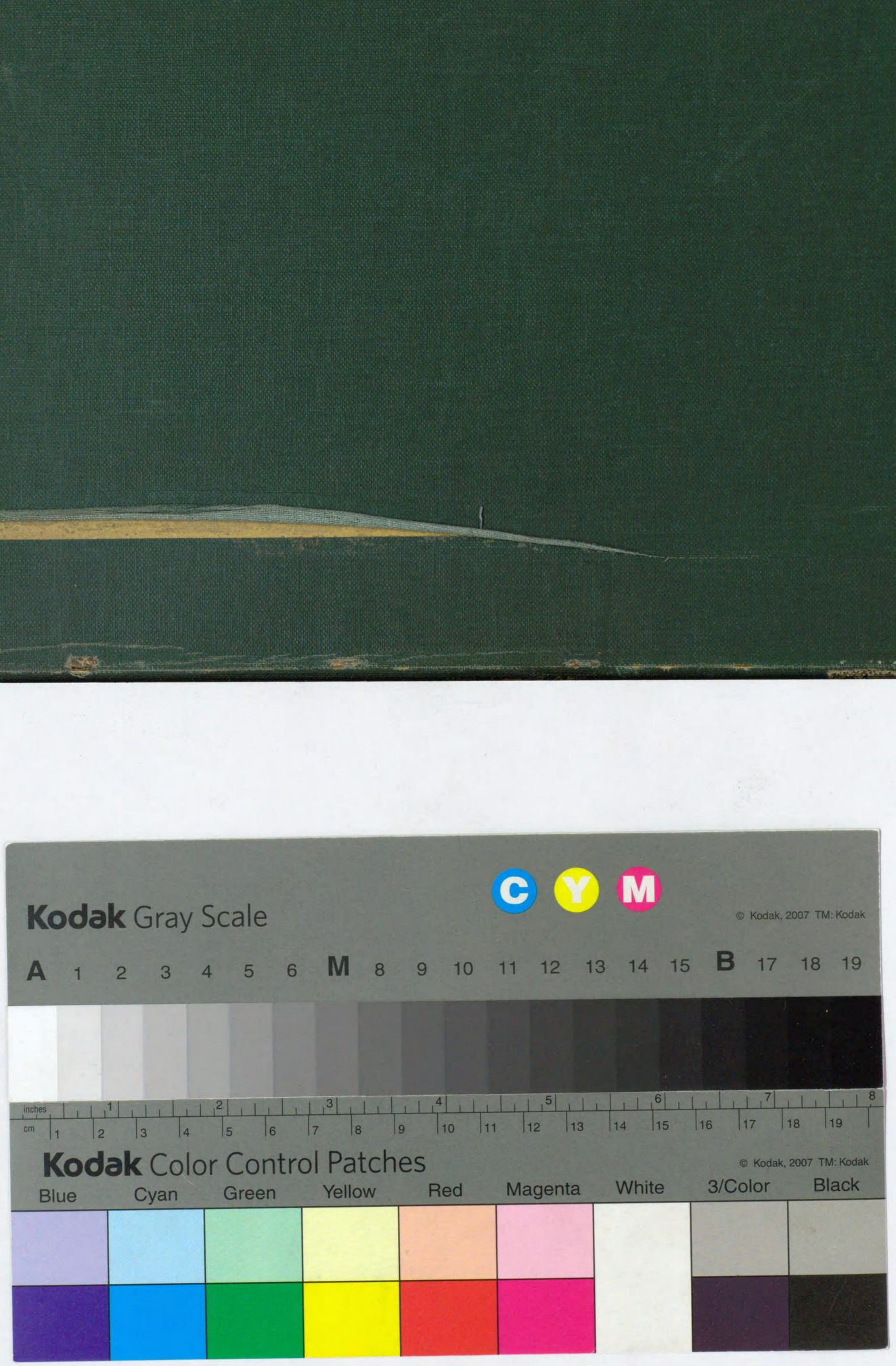

Kodak Gray Scale
C Y M
© Kodak, 2007 TM: Kodak
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19
inches
cm
Kodak Color Control Patches
© Kodak, 2007 TM: Kodak
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

562
167

403

和蘭陀館集

納本

NEDERLANDSCH PAVILJOEN

PAVILLON NÉERLANDAIS

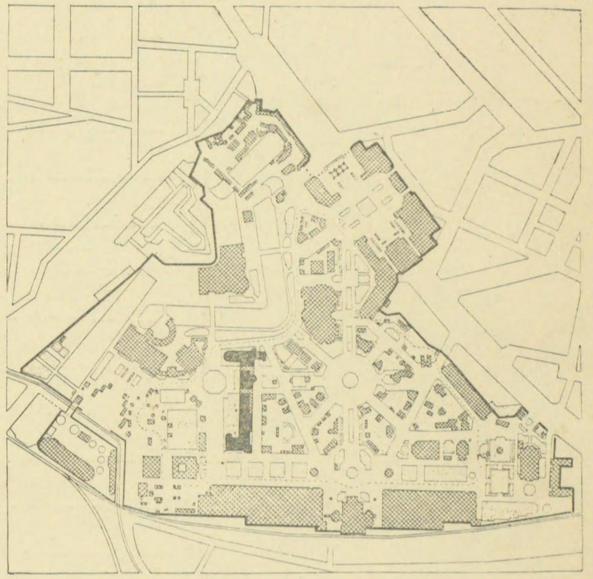
THE DUTCH PAVILION

NIEDERLÄNDISCHES PAVILLON

562-167

1930アントウェルプ博覽會に於ける
オランダ出品特設館

建築家 H. TH. WIJIDEVELD



東京洪洋社編

和蘭陀館集

について

在伯林・藏田周忠

目次

1 ……平面及姿圖
2 ……同
3 ……主入口の壁柱
4 ……東側面，主入口(東側)
5 ……西側面，南側面
6 ……主入口壁柱，主入口
7 ……通路・南より北へ
8 ……通路・北より南へ，南より北へ
9 ……大廣間(北側)，オランダ紋章
10 ……主入口，賣店，中庭
11 ……大廣間
12 ……同
13 ……大廣間・階上印度部，大廣間の一隅
14 ……アムステルダム部
15 ……大廣間・階上印度部，アムステルダム部
16 ……N.V. ホーロー鐵具出品，デ・シェルデ出品
17 ……第三部陳列
18 ……ロッテルダム部廣間
19 ……ロッテルダム部廣間，蘭領印度石油部
20 ロッテルダム部階上，ロイド汽船分社出品，同一部
21 ……ロッテルダム穀物商出品，蘭領印度石油部
22 ……ロッテルダム海運一覽
23 ……ロッテルダム比較模型と壁面，ビール會社出品
24 ……壁柱夜景

×

『——オランダ館は、その新時代的形成と、その色彩と、その雰圍氣を以て、新らしい生活趨勢の眞面目を體現し得てゐることに期待をかける。なほ更には、若きオランダに擡頭せる靜穩な喜悅を滿足なる展覽に供することを得て、世界中の民族の國際的協働を獲得したい。——航海、新開地及フレミッシュ藝術に對するアントワープ博覽會を動機として。

すべての工業、あらゆる商業、すべての科學及藝術はその收獲なのである。』

×

オランダ特設館の——特に建築だけの——ための小冊子の序文にこの建築と陳列との事を記した終りに、前記の一節がある。

設計者はアムステルダムの新人ウィイデフェルト氏であるが、設計と相俟つて、關係者の意氣込と欽恃とを語る言葉として、頼もしくもまた美ましき限りである。何故となれば國際的な博覽會にかくも新鮮なる設計を大規模に建築することを得るきへあるに、なほ、自分達の若き時代の建築として、之に協讃する當局者を持つ心強い經驗は、我々にはまだないのであるから。

×

アントワープの街をわざと馬車で、見物しながら通りぬけて、それから普通の博覽會見物のつもりで會場に入つて行つた私は、此オランダ特設館の所へ來て、驚きと喜びと、それから羨望と啓發の混交した實に複雜な心持を經驗して、すつかり考へ込まされてしまつた。

×

「若きオランダ」は「御朱印船」時代の和蘭陀の色彩ではもうない。全く新らしく明るいしかも特有の色彩と構築とを以て我々に話しかけてゐる。

建物は新らしい時代の型である。材料も世界的に共通の市場品である。それだのにこゝには新らしい特性的な構築が立派に築き上げられてゐる。——こゝに學ぶべく考ふべきことが多分にあると思ふので、幸ひ手に入れることを得た材料だけで、とりあへず參考のため圖集を上梓してもらうことにした。そのためにこゝに、材料や色彩のことゝその印象を少し記してをかうといふわけである。

×

この「新時代の特性を體現しやう」と企てた建物には、まづ最も經濟的なることが要求された。そのための苦心と考案とが到る所に見られる。——構造は勿論木骨。仕上材には木、セメント、アスファルト紙、トリプレクス、セロテクス、マソニット等が多量に使はれた。と記錄されてゐる。

外部から目に附いたものを記してみやう。

×

外壁はモルタルに水性塗料で純白の粗面仕上げ、その腰が明るい紫色なのを近づいて見ると、ガラスの碎片である。一糎內外に不定の形に碎かれたまゝのガラスであるが、ビール瓶のかけらのやうにシャープではない。大部分紫色、これに少量のエメラルド色の小片と更に少量の朱と黃との小片が點在してゐる。「レールダムの硝子工場」の製品ださうだ。

これが全建物の腰に、而も一律的でなく、或所は高く、また低く、白い壁や黃色い木部と文樣をなすなど變化が多樣なことは圖に見られる通りである。大體に於て大きな面は白と紫。これに文樣としては窓枠や木部の黃と朱と、白と水色とが幾何學的な線によつて組立てられてゐる。

圖7.8の大きな窓の線は朱と白と黃と水色との組立てで、この部分ガラスは淡黃色である。

要するに外部は、白と紫の大きな面とその結合。それに織物のやうなこの色彩面。

圖9の文樣は金、白、水、朱、黑で、見込の厚い自由な組立て。

×

室內が如何にも大きくとつてある。

圖 11 以下に見られるやうに、壁、柱から、腰掛、陳列臺に至るまでベニヤ板の使用の盛んなのに一驚する。それも大きな面を作るか箱を形成するかである。べなべなの板のまゝで單に戶棚の脊板に使ふのではない。もつとずつと積極的である。

圖 11. 12. 13 の壁面の色の變化と線文樣は、すべてこのベニヤ板の素木のまゝの色と纖維の方向とによつてゐるものである。

天井や壁のセロテクス其の他の厚紙の效果は、圖 13. 15 等によく見られる。

圖16 17の棚はすべてベニヤの箱である。

文字もベニヤの箱である。——ベニヤ板の小口などは氣にしないで組立てゝゐる。

圖 18 以下のロッテルダムの部分は、また色彩が違ふ。特に異つた材料を使つたのではないが、その組立てと仕上とが、自ら特性を出してゐる。

圖 19 の下及 21 の下の盛んな壁面文樣もベニヤ板の象嵌である。

圖22と23の上もベニヤ板の活躍であるが、その壁畵は、板面に綠や銀を使つて描かれた效果が正に日本の金屛風である。——素木の板面に描く技法は、たゞ我々の古典としてしまつてをけばよいものだらうか——。

×

要するに室內はベニヤ板と、厚紙とガラスの面の組立てである。——臨時ものゝ感じだと言へばそれまでゞあるが、安い材料を以て、色彩を多樣に使はないで、かく迄建築的に構築されたのを見るのは如何にも愉快である。そして一度自分の周圍を考へ合せるに及んでそこに複雜な心理を經驗するのである。

×

建築は室內に於て强い色を使はないが、陳列はよく空間を利用し、建築的構成の一部としても充分な效果を作り出してゐる。色も强い色を使つてゐるが、全體としての統一と變化性とに充分な考慮が拂はれてゐるのがわかる。すべてが造型的協働である。

×

面全積一〇〇〇〇平方メーター。
塔屋の高さ三〇メーター。

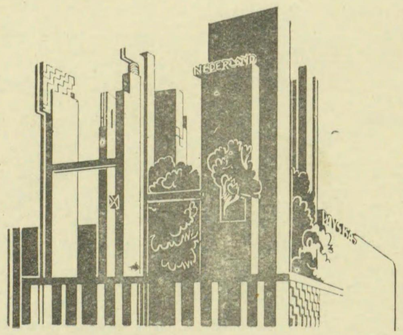
4

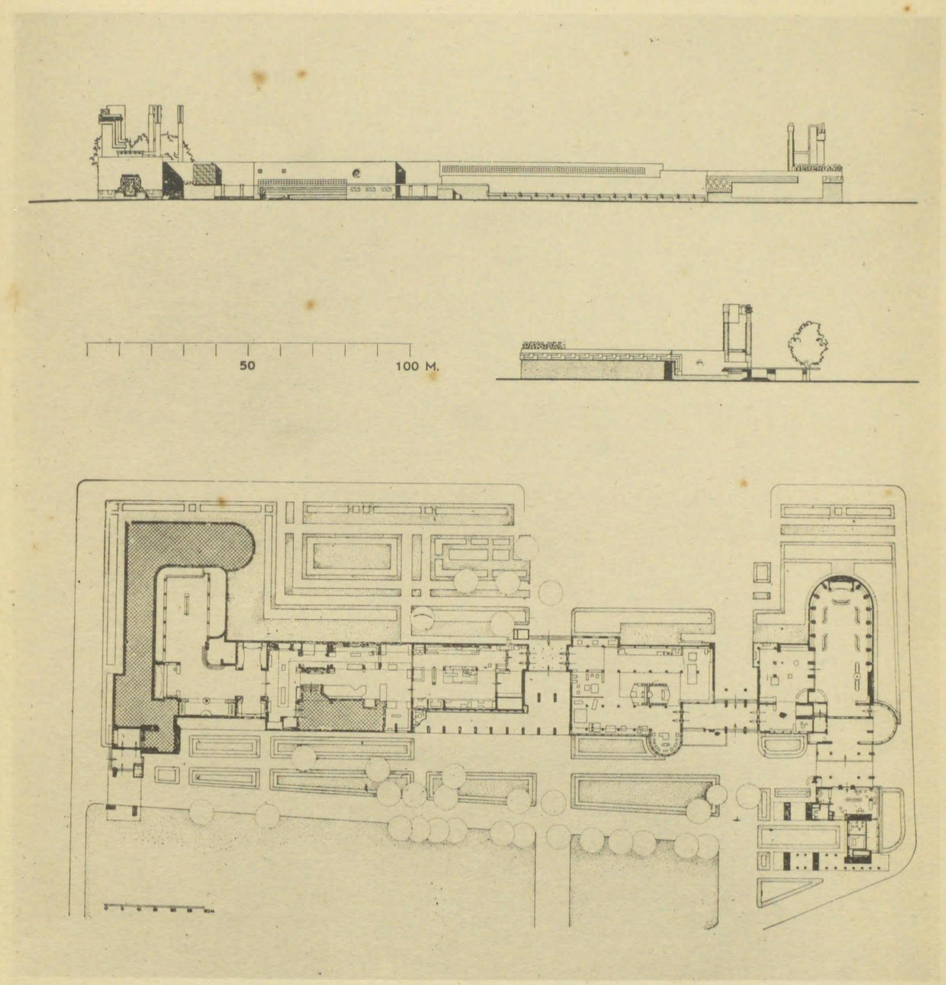
×

記事を長々と書いても實感は出さうにもない。——私の意圖は——寫眞だけの想像よりも色を以て之を補ひたかつたのである。更に之を詳しく紹介したいと思つた理由は、特に古い形や細部を使はないでも、更に積極的に新しい世界共通の原則的な形態によつても、なほ且つその取扱方の如何によつて、新しい特性的な形態を構築することが出來るといふ實例を、この「オランダ特設館」に於て紹介してをきたいのである。

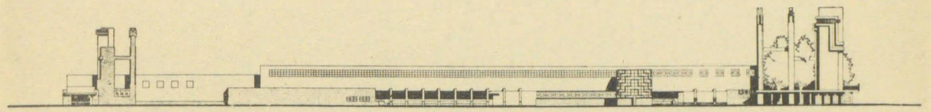
そして、博覽會の一時的建築に於ても、獨創的なものゝ建築が困難で、新しい構成の受容されない日本は、如何にして新らしき時代の建築を獲得し得るのであらうかといふ疑問をも併せて提出してをきたいのである。——このオランダ館によつて與へられた我々自身への反省と共に。

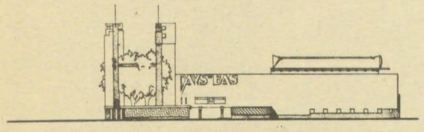
（一九三〇年十月在伯林・藏田周忠）



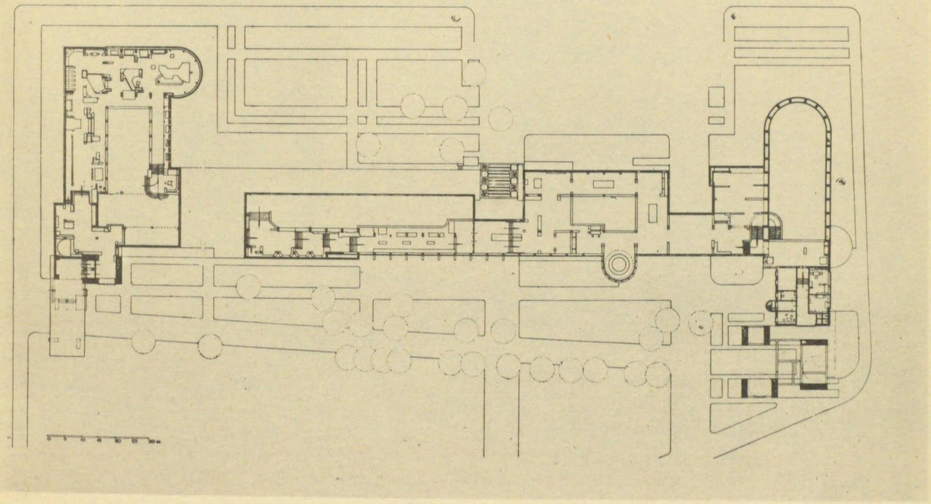


〔和蘭陀館集〕





50 100 M.

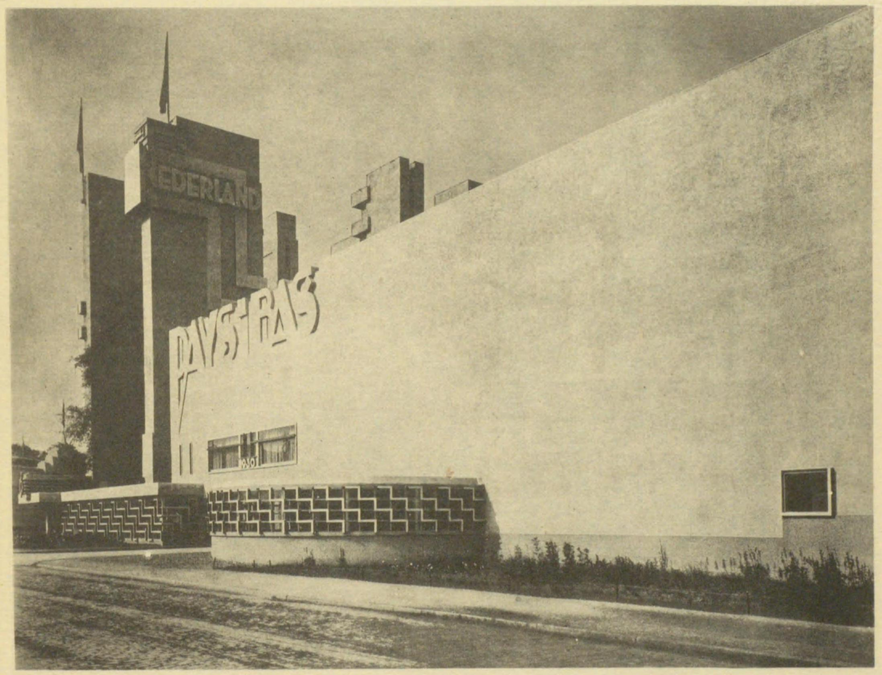


〔和蘭陀館集〕

〔和蘭陀館集〕

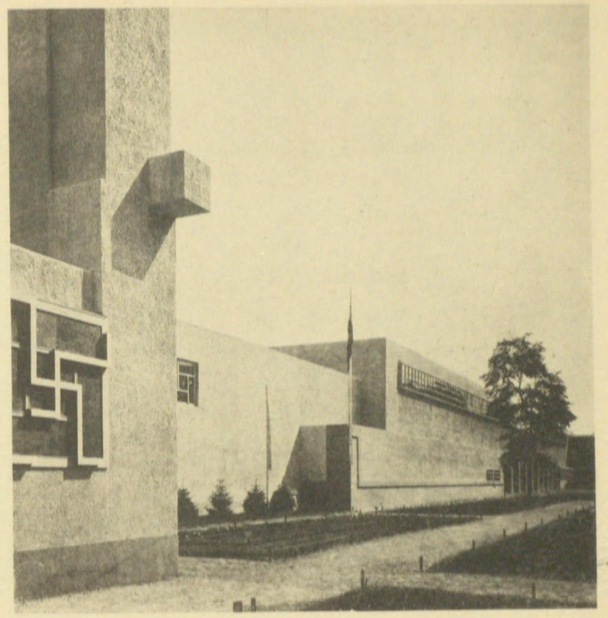
主入口の壁柱

← 東側面

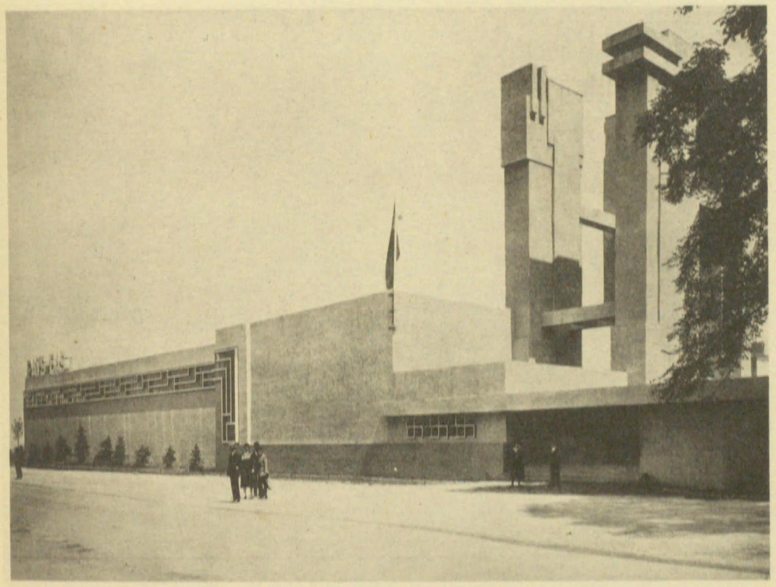


主入口（東側）↑

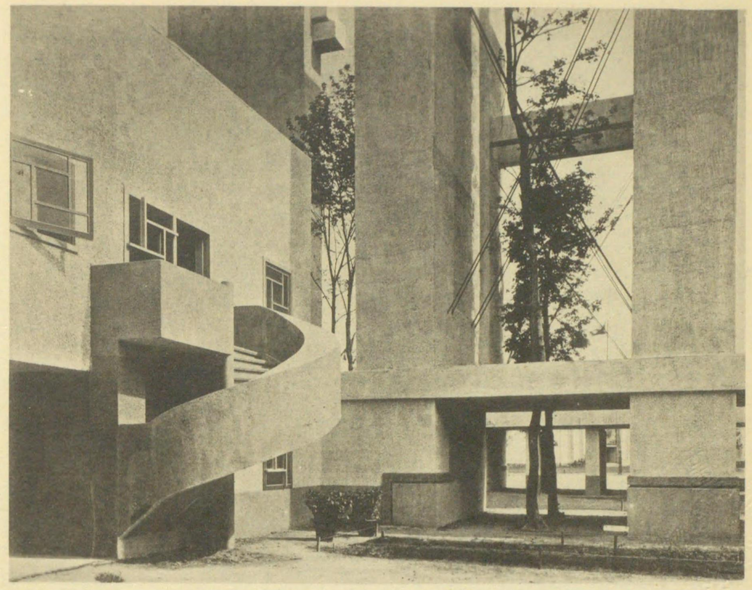
西側面 →



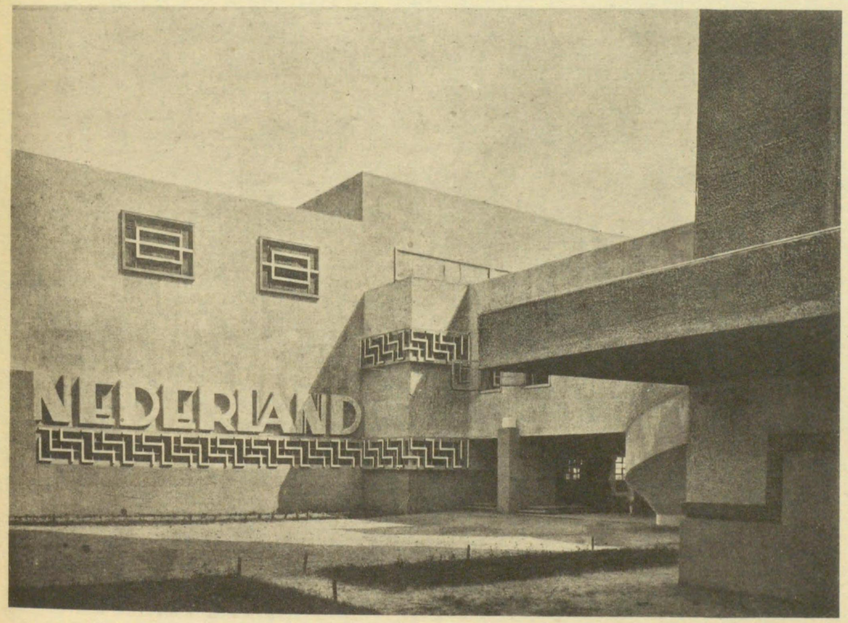
南側面 ↓



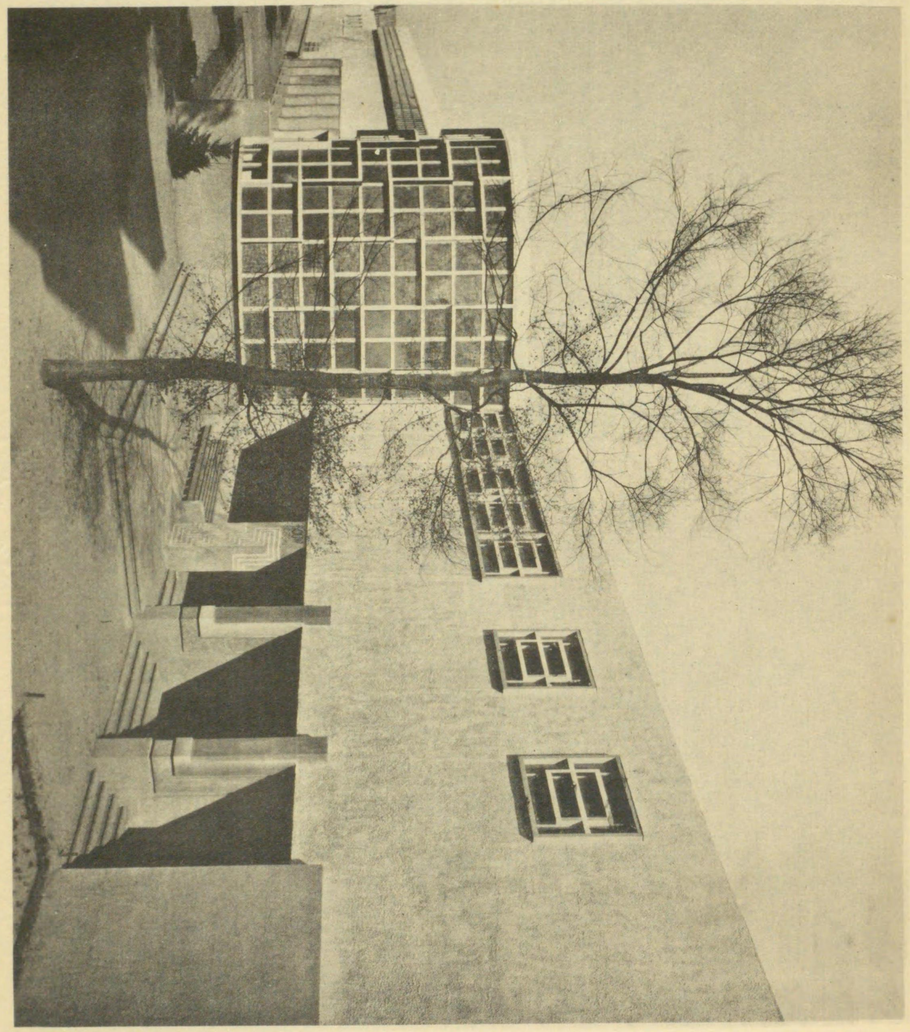
主入口壁柱 →



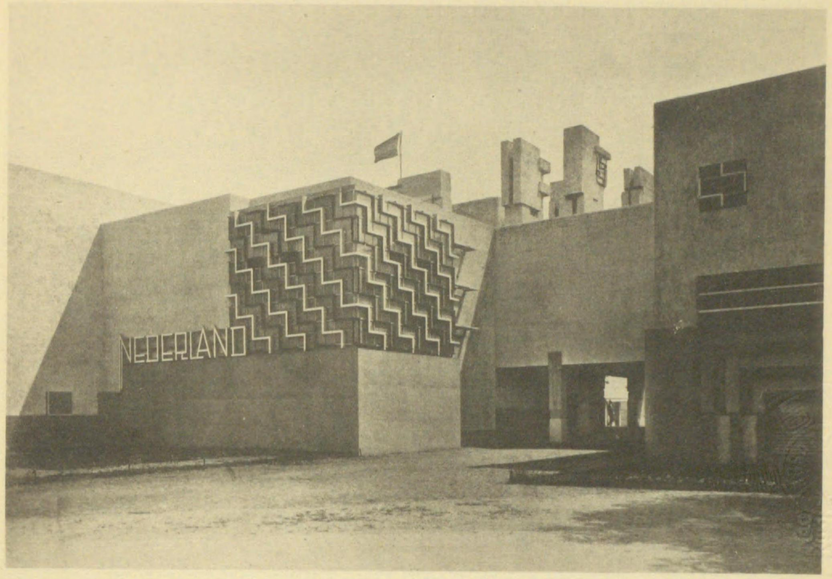
← 主入口

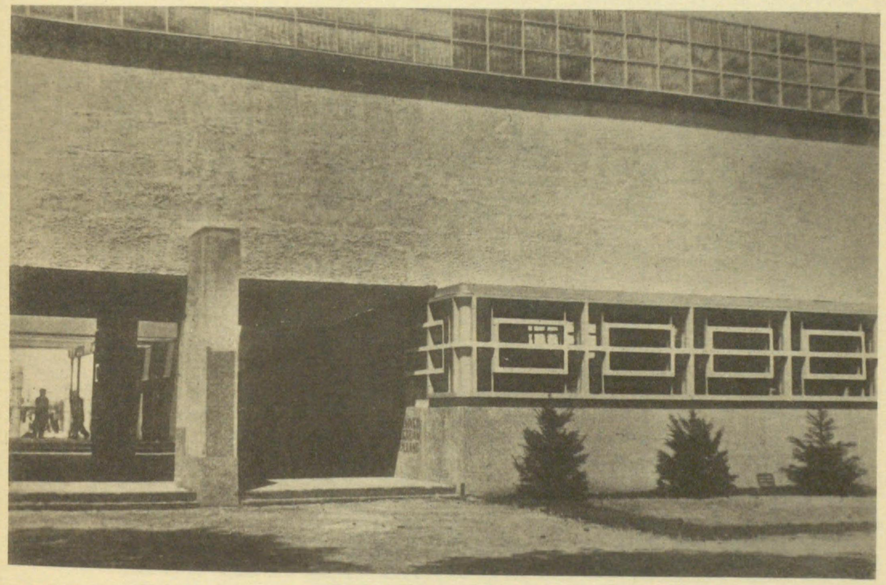


（英國國會議事堂）



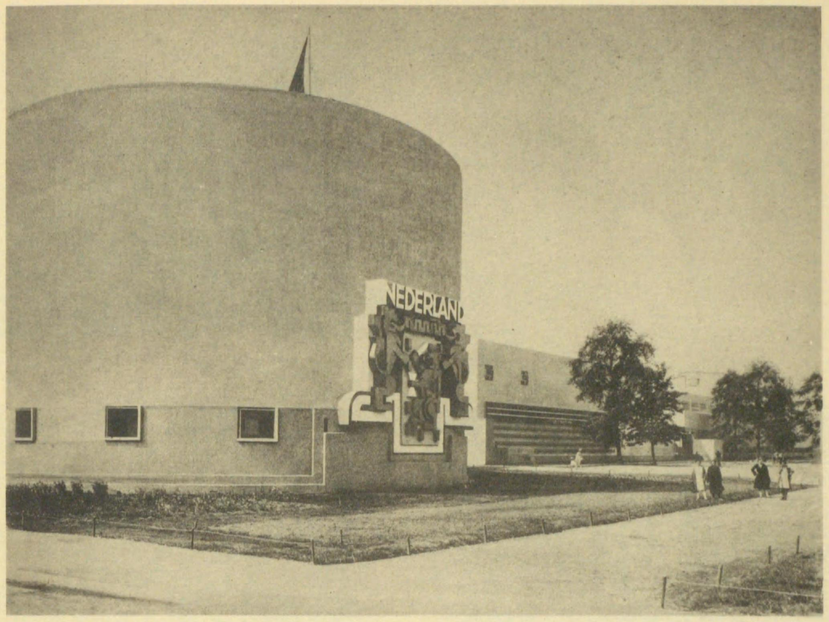
通路・北より南へ→





〔和蘭陀館集〕

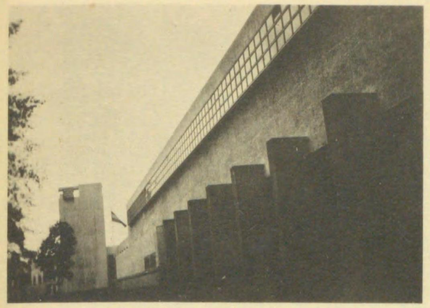
通路・南より北へ↑

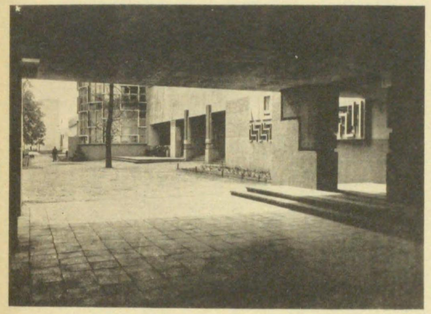


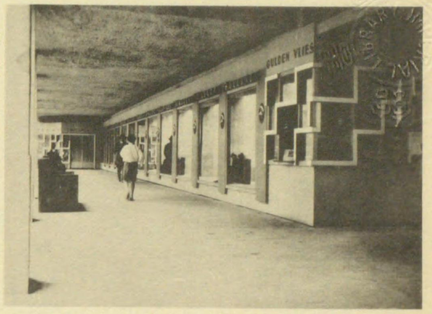
→オランダ紋章

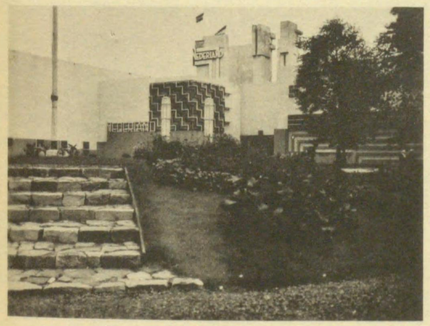
↑大廣間（北側）

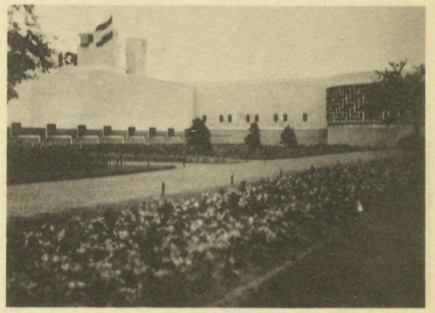
中庭
賣店
主入口

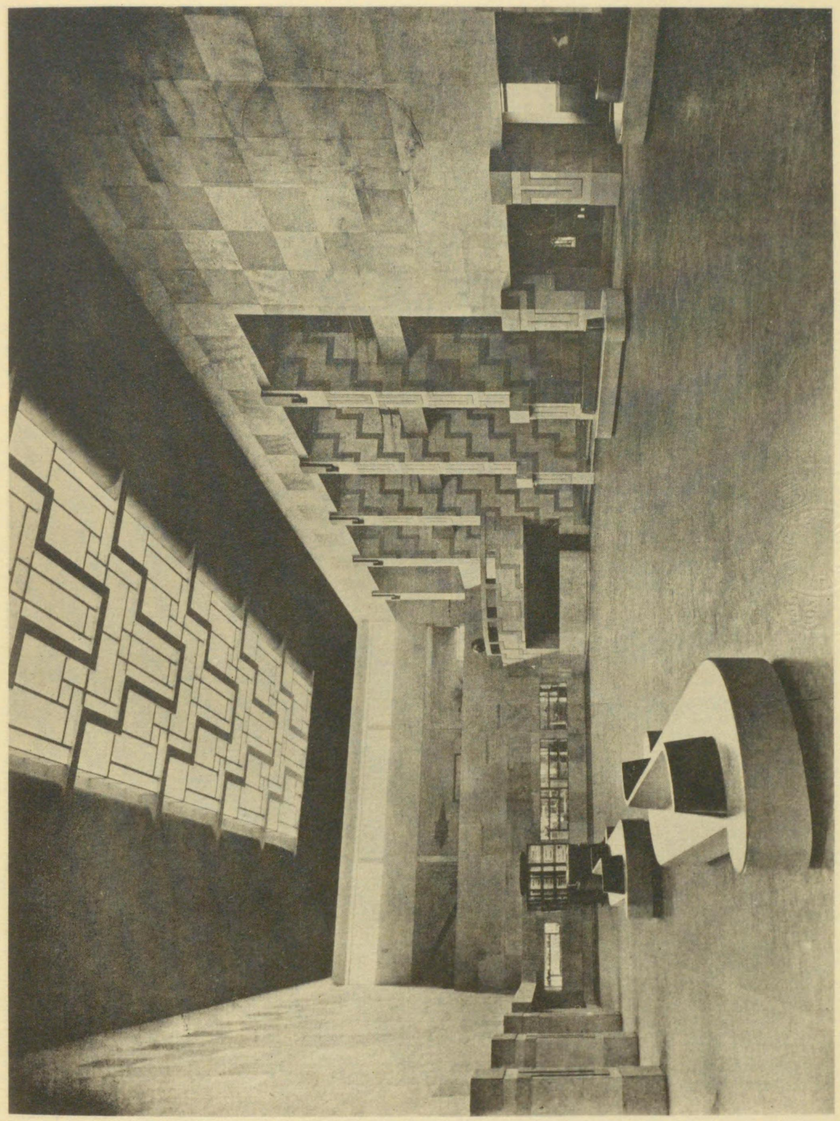




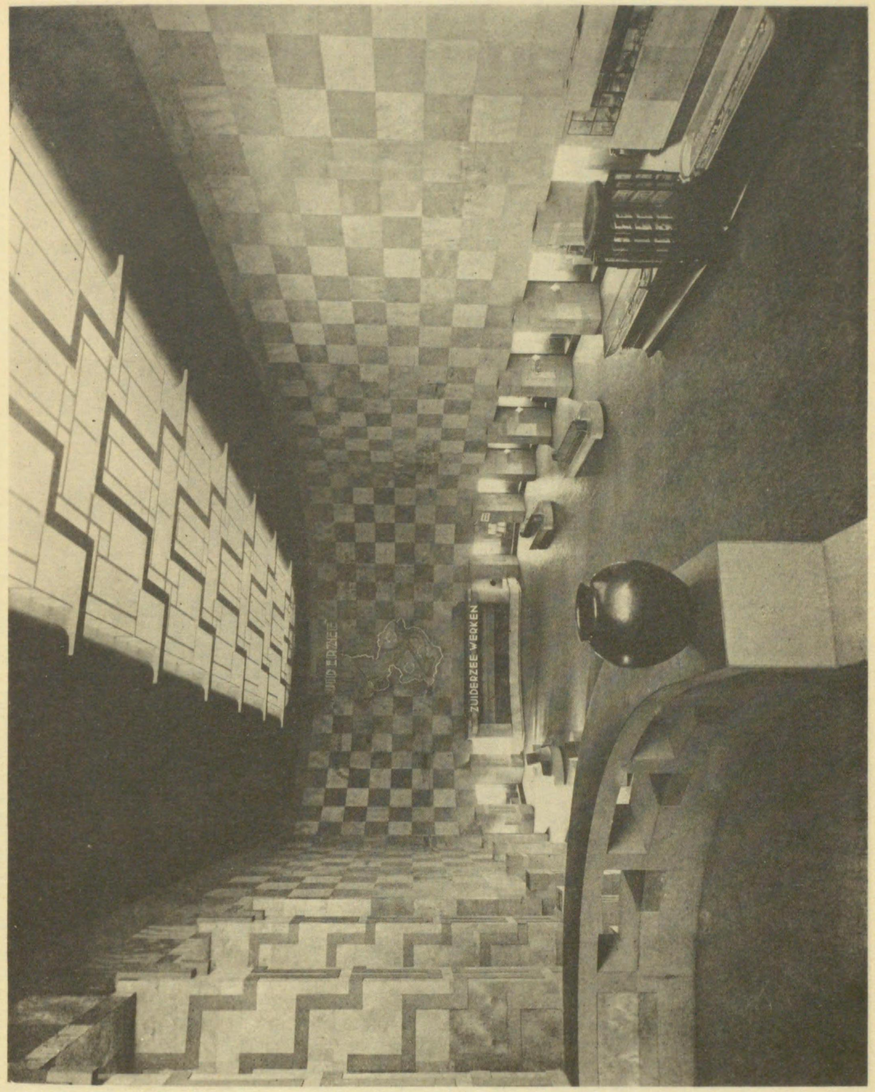








〔知覺陀館集〕

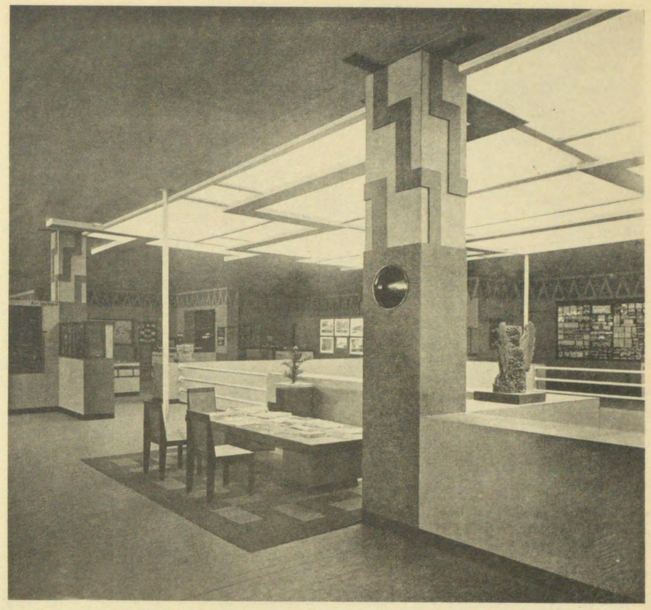


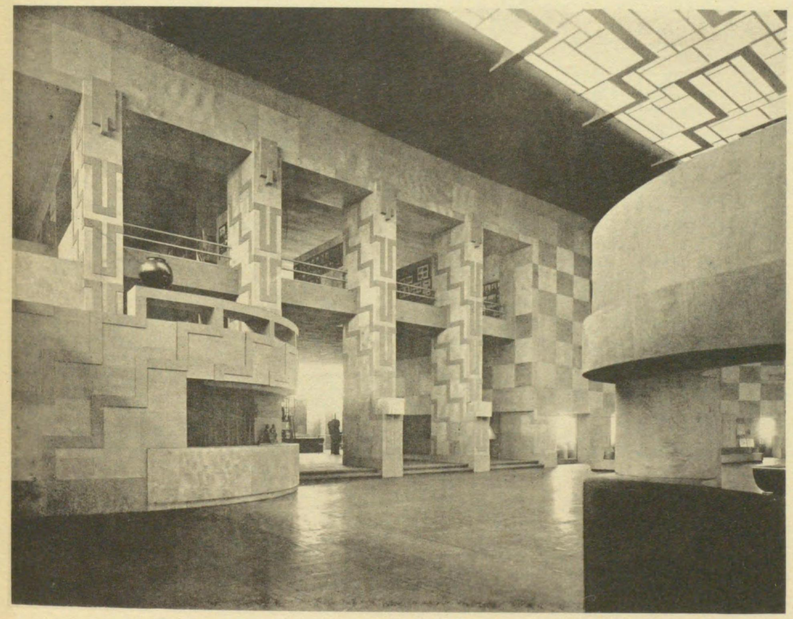
〔和蘭陀館集〕

大廣間

12

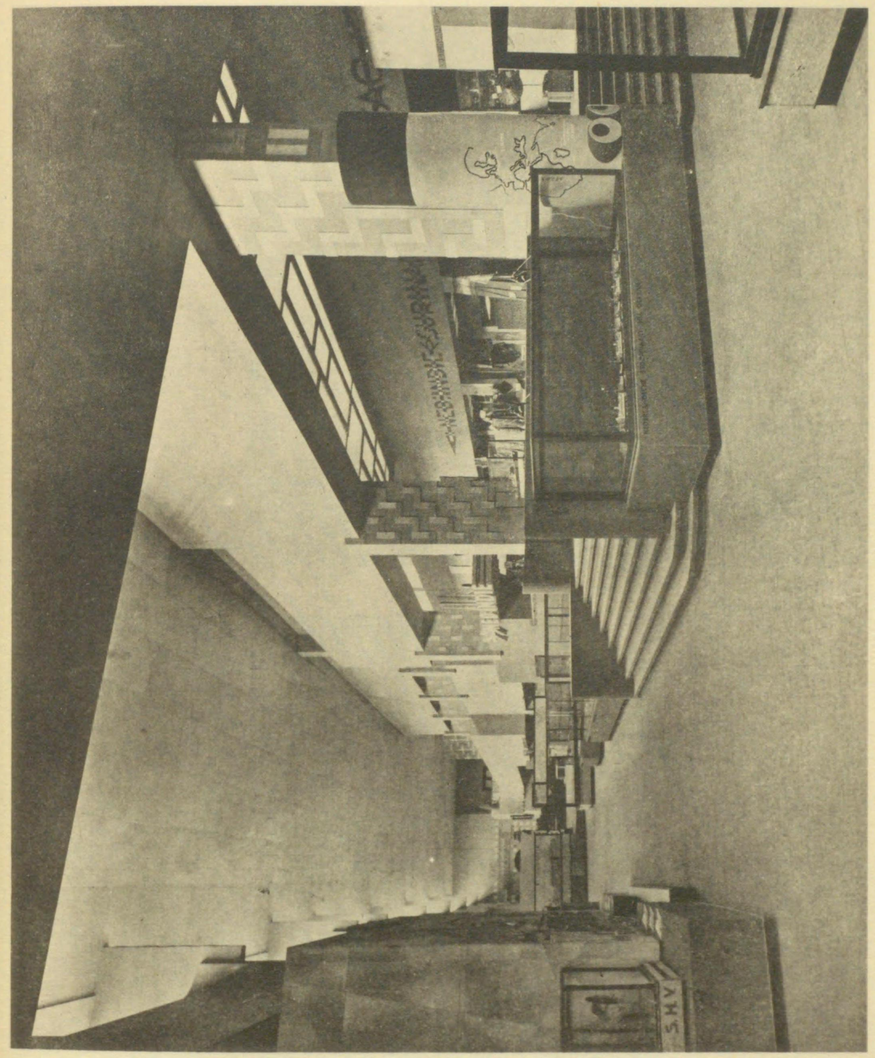
大廣間・階上印度部 →





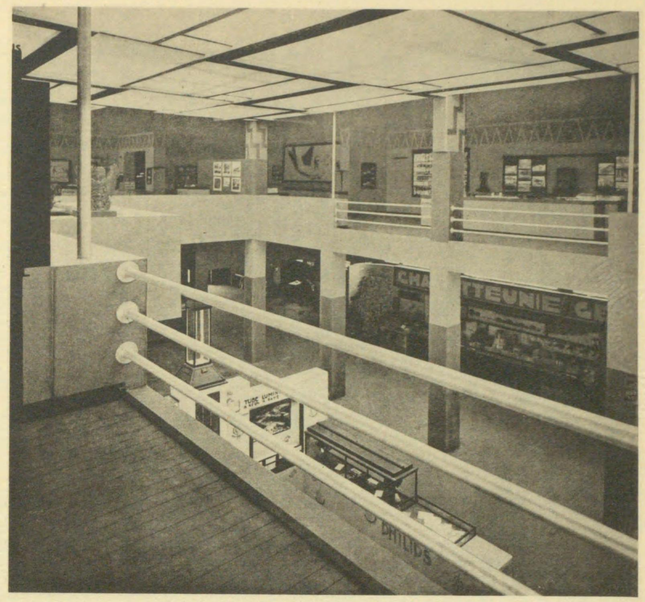
〔和蘭陀館集〕

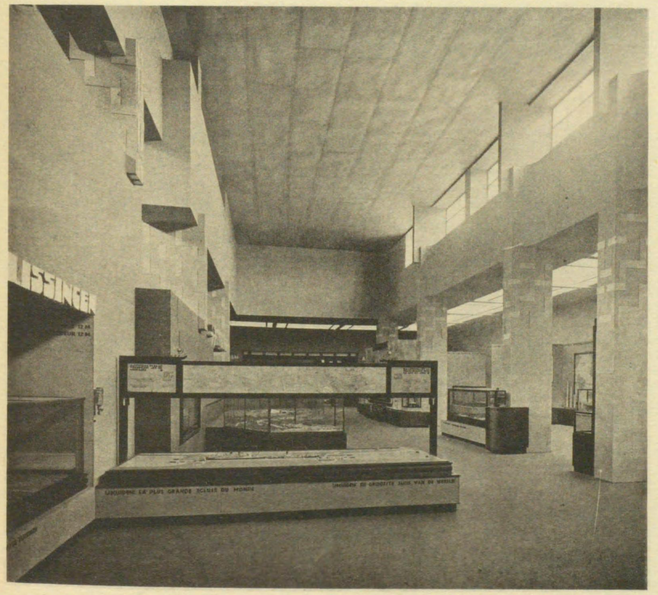
大廣間の一隅 ↑



〔和蘭陀館集〕

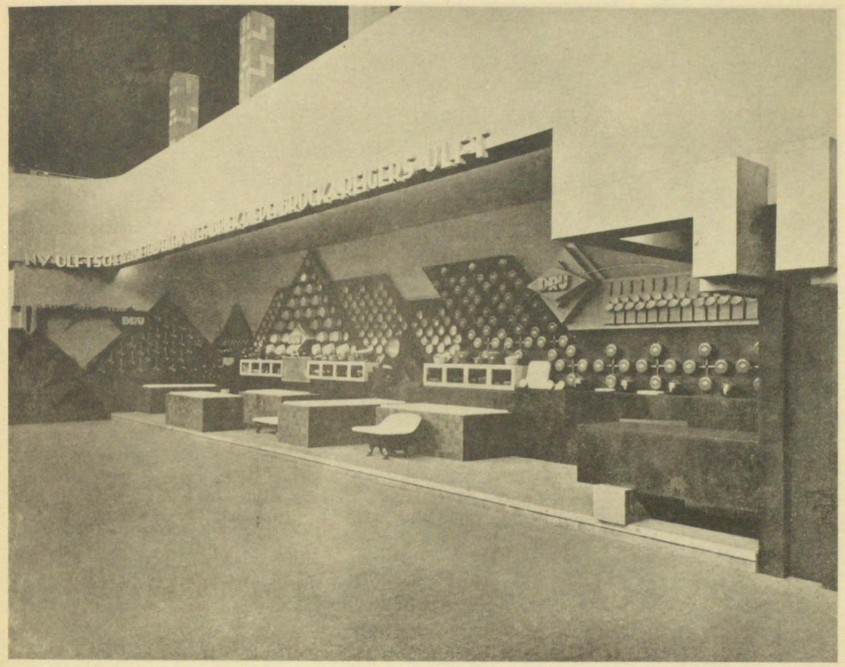
大廣間・階上印度部 →



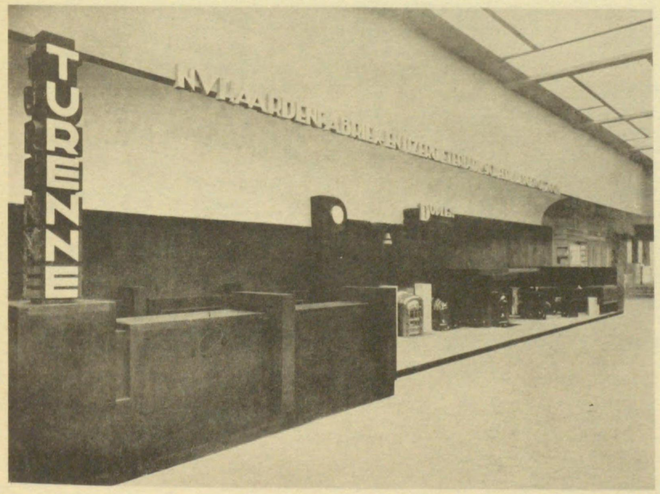


〔和蘭陀館集〕

↑
アムステルダム部

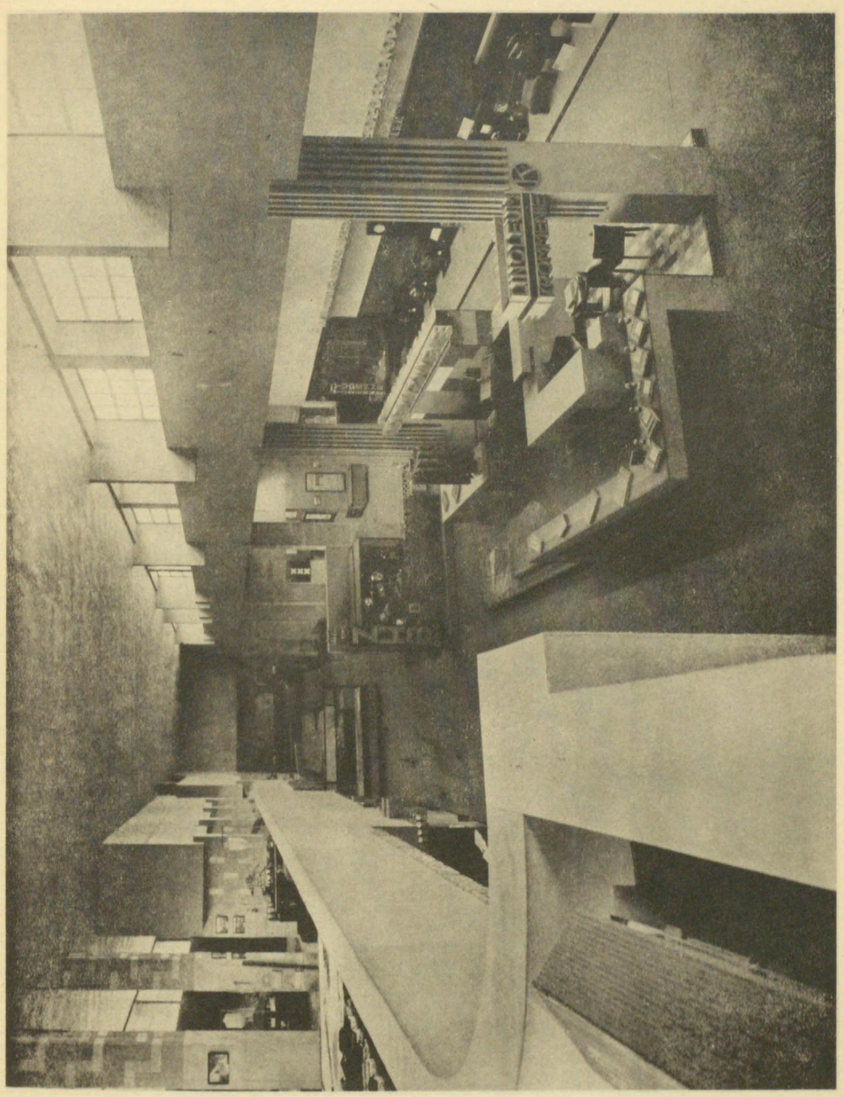


↑
N. V. ホーロー
鐵 具 出 品

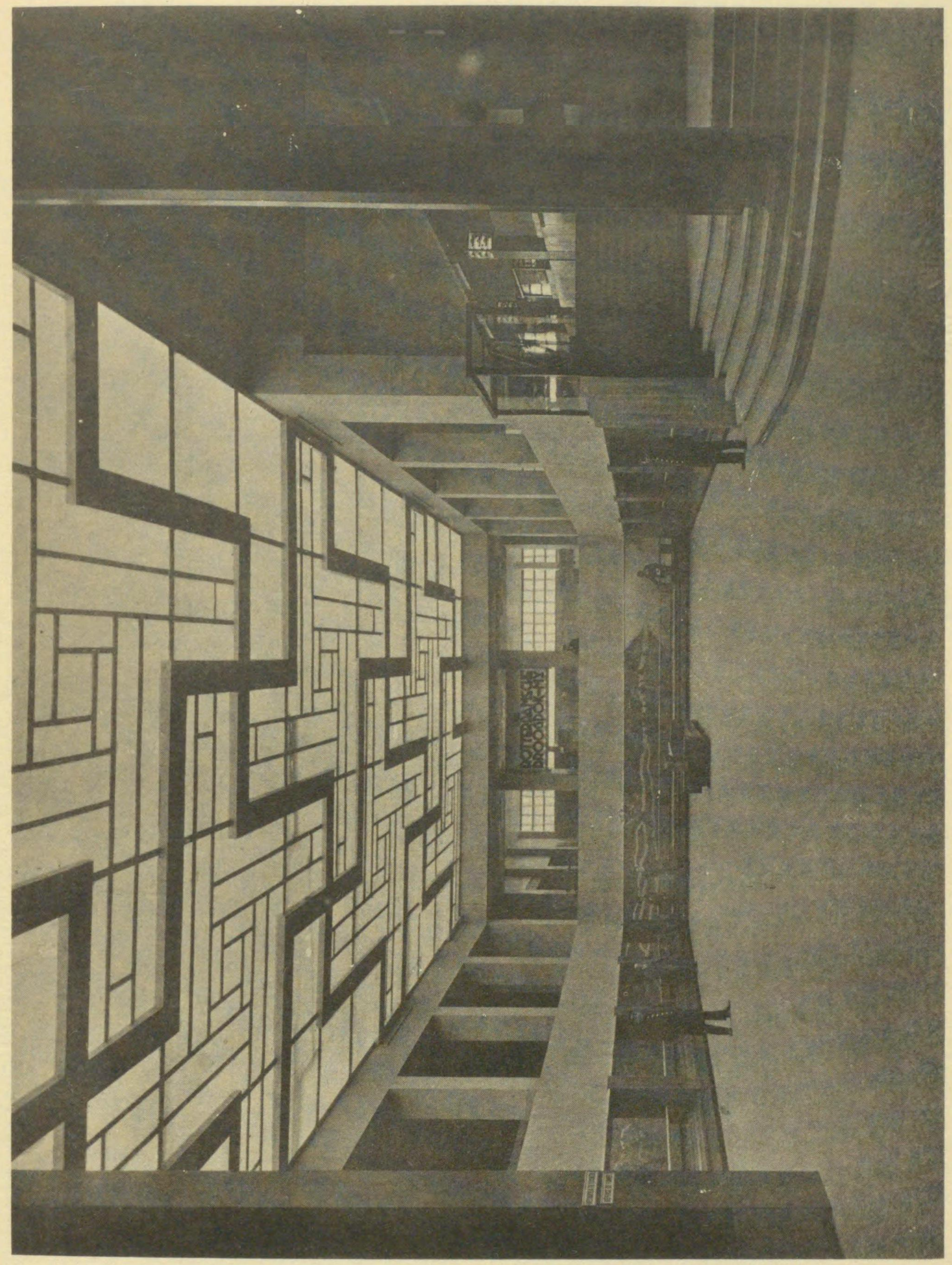


〔和蘭陀館集〕

デ・シエルデ出品↑



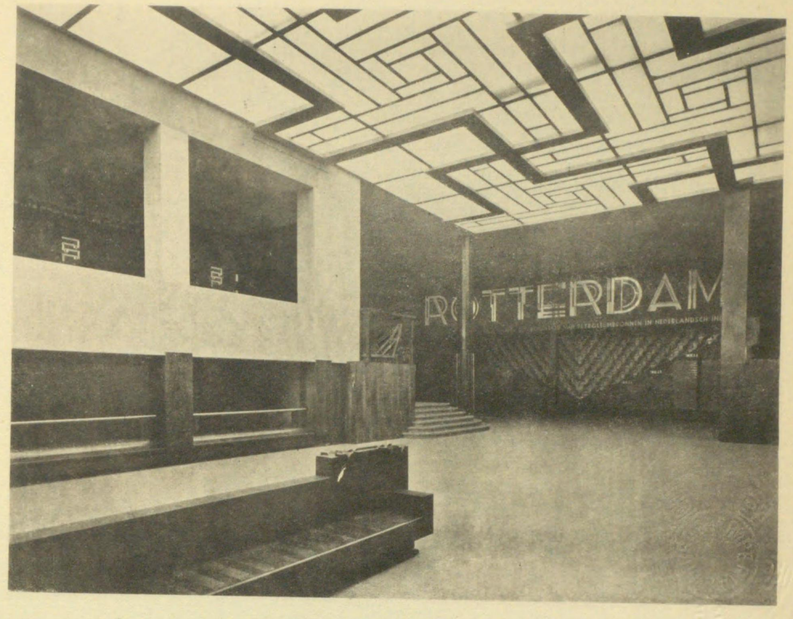
〔和闐陀館集〕



(和蘭陀館集)

ロツテルダム部廣間

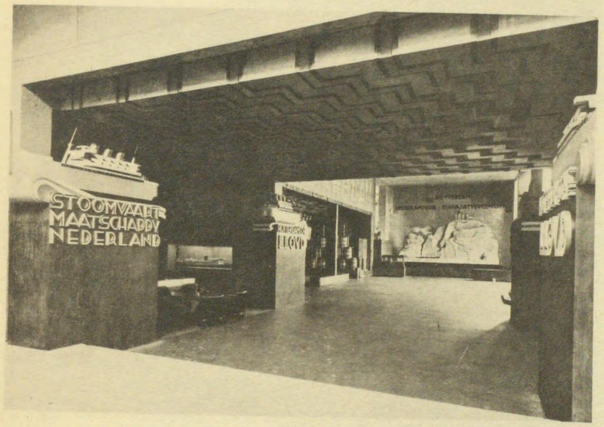
ロッテルダム部廣間 →



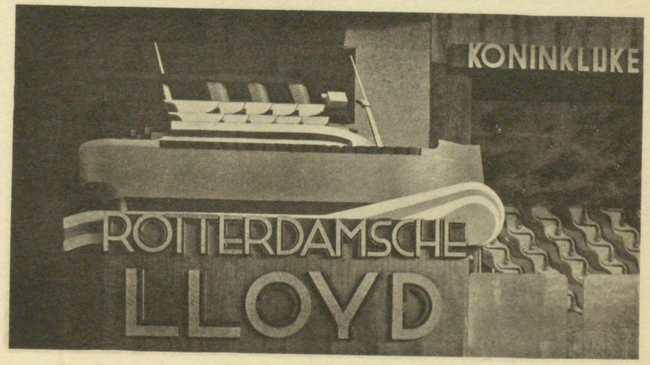
↑ 蘭領印度石油部

〔和蘭陀館集〕

ロッテルダム部階上 →

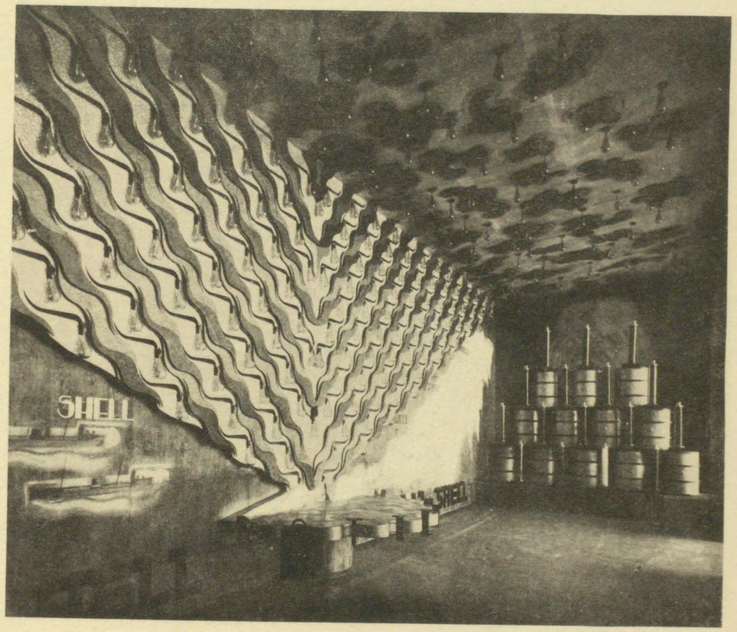


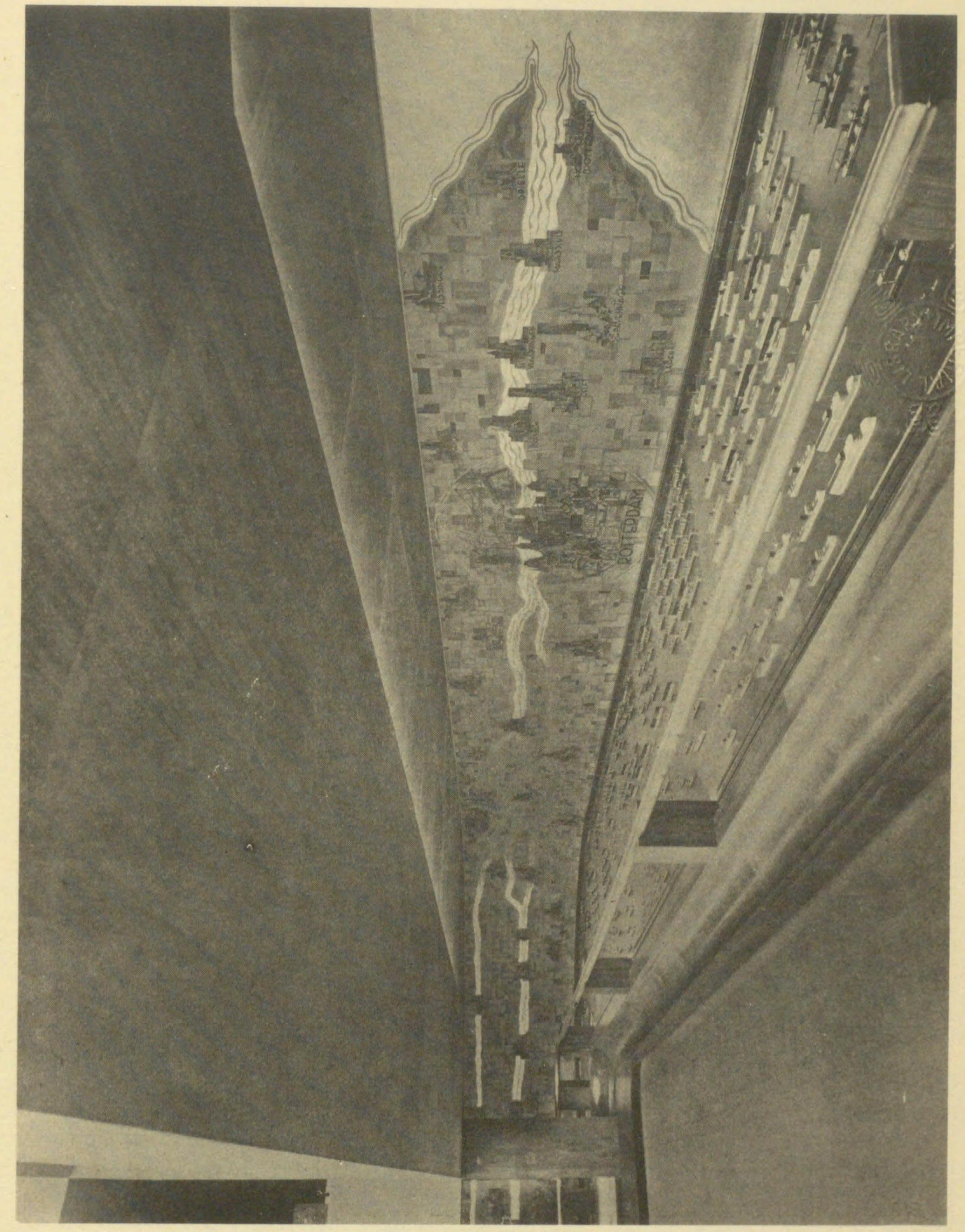
←ロイド汽船會社出品其の一部→



ロッテルダム穀物商出品→

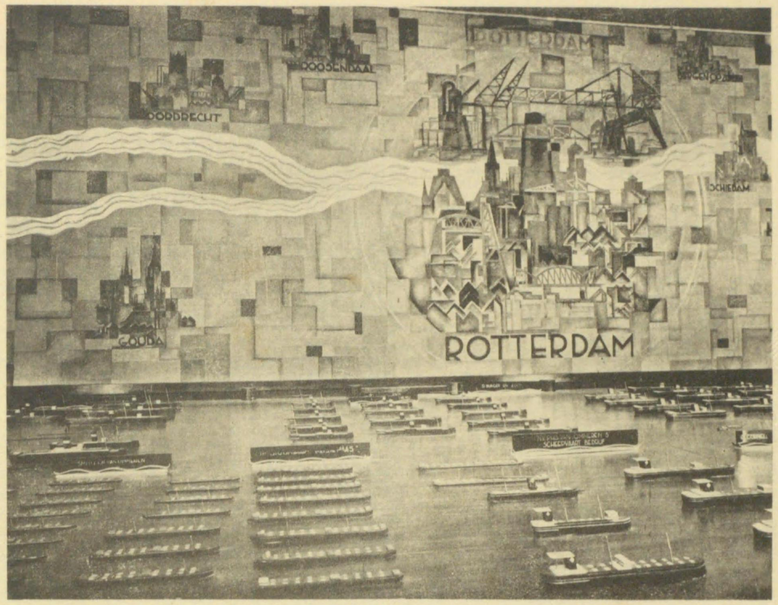
蘭領印度石油部→



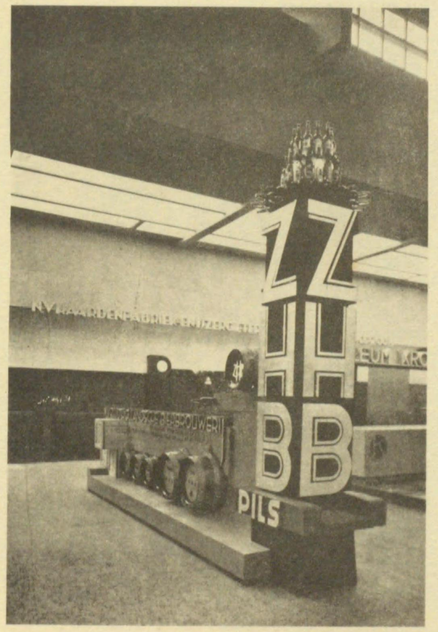


〔和蘭陀館集〕

22 ロッテルダム海運一覧



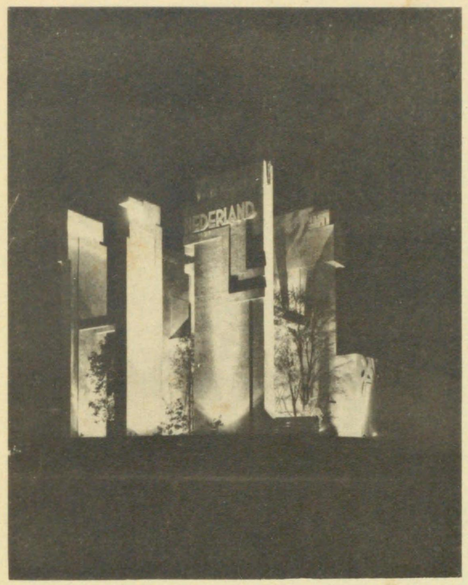
↑ロッテルダム比較模型と壁面

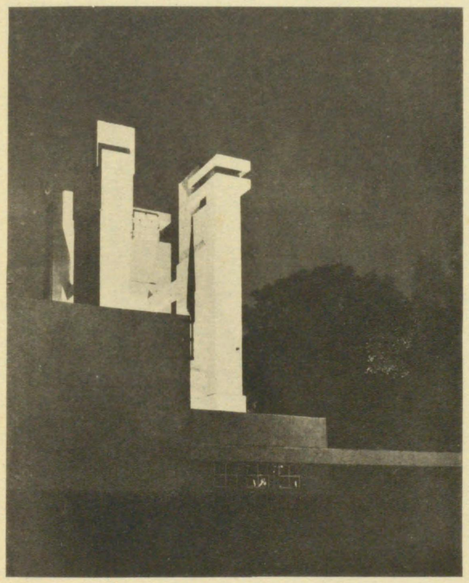


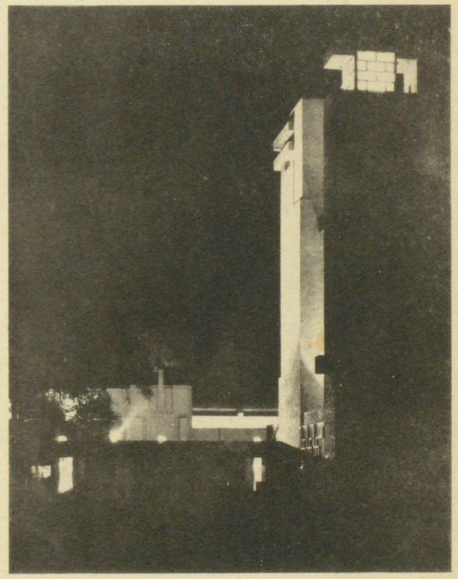
←ビール會社出品

〔和蘭陀館集〕

壁　　柱　　夜　　景







昭和五年十一月十五日印刷
昭和五年十一月十八日發行

【和蘭陀館集】

◇定價　金壹圓貳拾錢◇

編者　洪洋社編輯部

發行者　東京市牛込區市谷臺町十番地　高梨由太郎

印刷所　東京市牛込區市谷臺町十番地　洪洋社印刷部

發行所　東京市牛込區市谷臺町十番地　洪洋社
振替東京二一八二四
電話・四谷・四四六二

關西代理店　大阪西區京町堀　羽子板橋西　柳々堂書店

特約店　東京日本橋通三丁目　丸善株式會社（其他全國支店）
東京神田表神保町　東京堂・三省堂

6. 3.6

562-167
1200501512800
562
167